

となりの子育て

レポート
vol.2

「結婚・産み・育て」に関わるさまざまな課題を解決するために、ワークショップを通してみんなで話したり、演劇の手法を使って考えてみましょう。

お子様を持つお母さん、お父さんだけでなく、結婚前の10代後半から20代の若い世代や、子育てを終えた世代も含めて気持ちをシェアし、みんなで考える場をつくります。



©Takaki Sudo

進行役：阿部 初美（あべ はつみ）

演出家。演劇集団円所属。故太田省吾（劇作・演出家）に師事後、演出家として活動。'06年より、にしがも創造舎レジデント・アーティストとして、東京国際芸術祭を中心にドキュメンタリー的な作品『4.48 サイコシス』『アトミック・サバイバー』『エコノミック・ファンタスマゴリア』などを発表。東京芸術大学、(財)地域創造リージョナルシアター事業、各地の公共劇場などで講師を務める。'10年に出産。現在は子育てしながらワークショップを中心に活動中。

連続 第2回ワークショップ

日 時：2014年7月18日（金）18時～21時30分

場 所：日立システムズホール仙台

参加者：8名



今日から参加する方を交えて、名前ゲームで準備運動をした後、10月の発表会に向けて、阿部さんから他の都市での事例を紹介してもらいつつ、仙台ではどんな作品が作れるか、話し合いをしました。また、幅広い世代、さまざまな立ち場での意見を集めるために、取材の計画を立て、これまでの参加者に書いてもらった「結婚、産み、育て」についての関心事を分類し、取材で使う質問事項を考えました。取材で集まった声をもとに作品をつくっていきます。



単発 第2回ワークショップ

日時：2014年7月19日（土）10時30分～13時30分

場所：のびすく泉中央

参加者：大人10名+子ども6名

今回は子育て中の方、これから子どもを産む方、未婚の方、結婚したばかりの方と色々な立ち位置の方に参加していただきました。お互いに名前を呼び合うゲームで参加者同士の名前を覚えた後、「結婚・産み・育て」について関心事を書いてもらいました。

今回出た関心事

- ・一人遊び
- ・子育ては本当に孤独なのか
- ・近くにじい、ばばがない。病気になったら…
- ・安倍政権
- ・子どもと過ごすのは楽しそう
- ・義両親との同居
- ・地域と子育てすることの不安
- ・仕事への復帰

関心事をみんなで共有した後、「仕事と子育て」「地域と子育て」「日本の未来」というテーマで3つのグループに分かれ、静止画（タブロー）を作りました。テーマからどんな画を作るかグループごとに話し合いを行いました。話し合いをするときは一人ずつ紙にそれぞれテーマにまつわるキーワードを出していきます。キーワードをもとに今抱えている課題や解決策や希望を話し、画をつくっていきます。

「地域と子育て」

回覧板をまわしているところにお裾分けをしにきた人がまざる

—— 振り返り ——

阿部さん

近所でお裾分けをする関係をつくりたいということでしょうか。

30代・女性・Aさん

お母さん同士が回覧板というアナログの情報を交換しているところに近所の人がお裾分けにきた画ですが、大きな枠ではなく、外に出て会話をすることが地域とのつながりだなと。

30代・男性・Aさん

顔が見えるリアルなつきあいということですね。

30代・女性・Bさん

じい、ばばだけでなく、同世代のつながりも地域のつながりで回覧板をまわすと、どこに誰が住んでいることがわかる。アナログなものはインターネットに載っていない地域の活動情報がわかる。そういう回覧板の情報交換からまた会話をして得られる情報がある。

30代・男性・Bさん

マンションなど集合住宅では誰が住んでいるのかわからないので、お裾分け制度によって顔を見せる関係になるのではないかと思います。



「日本の未来」

暗いところから子どもと一緒に明るいほうを向いている

— 振り返り —

阿部さん

作り手側ではどんな話ができましたか

30代・女性・Cさん

今の政治を見て、自分の子どもが戦争に行かなくてはならないのかと、不安があります。先は真っ暗なだけけど、明るい方向、道がどこかにあるはずなので、子育て世代が子どもと一緒に道を歩いて模索をしている願いの画です。

阿部さん

テレビ番組で、女子大生に今の政治についてどう思うかとインタビューがあって、女子大生は「自分が死ぬまでは関係ないからいいや」と答えていたそうです。子どもがいると未来に当事者意識があるというか、まさに未来に関わりますよね。



「仕事と子育て」

お母さんを支える人たち、仕事で疲れているお母さん、子どもを預けるお母さん

— 振り返り —

30代・女性・Dさん

フルタイムで働きながら、子育ては至難の業です。他にも家事があって、このままだと倒れてしまいます。子育てもしたい気持ちもあり、子どもと離れるのも嫌だなあと感じます。支えてもらわないと困ってしまいます。

20代・女性・Eさん

働くというのすばらしいことなので、お父さんや周りの支えが必要だなと。

30代・女性・Dさん

働くならば生き活きと働きたいです。

阿部さん

働くことに関して子育てに関して「社会復帰」という言葉があります。子育て中の方は社会にいないことにされちゃっているんですね。「社会復帰」という言葉は、社会にいないことを認めてもらえない、社会人として見られていない、社会にいないことになっている今の現状を表していると思います。

阿部さん

Fさんは結婚したばかりだそうですが、子育ての先輩の現状を聞いてみてどうですか。

20代・女性・Fさん

大変そうだなと。自分ができるどうか。

阿部さん

先輩としては何をアドバイスしますか。

30代・女性・Gさん

1歳を過ぎてからかわいくなりました。歩き始めたり、言葉を覚え始めたりするとかわいい。

阿部さん

子どもを持ってよかったことは何ですか。

30代・男性・Aさん

奥さんは子どもが好きじゃなかったのですが、生まれてからすごい好きになりました。

30代・女性・Cさん

産んでみて、かわいい、かわいいと思いました。妊婦の身体になって、制限を持つようになってから考え方が変わりました。あまり早く歩けないとか、物事を長期的にとらえなきゃいけない

いので、前より暢気になりました。信号が点滅していたら渡らないとか、エスカレーターでは歩かないとか、エレベーターを使うとか、優先席に座っていいんだとか、あきらめがつくようになりました。

30代・男性・Bさん

周りに流されていたところが無理なくて良くなりましたよね。

阿部さん

あきらめがつくことは決して悪いことではないです。人が生きるということはこういうことなんだと、自然にかえります。

30代・男性・Bさん

生き物としてのスピードが取り戻せますよね。

30代・女性・Hさん

散歩で子どもと一緒に歩いていると目線が変わって、いろんなことに気づけるようになりました。独身でいた時や子どもが生まれる前より、目線が増えました。花が咲いているのを一緒に発見したり、景色の見る目が変わりましたね。

ワークショップ日程 | 参加者募集中!



4都市連携プロジェクトとは

この事業は、北九州芸術劇場（福岡県北九州市）、世田谷パブリックシアター（東京都世田谷区）、水戸芸術館（茨城県水戸市）、仙台市市民文化事業団（宮城県仙台市）の4団体が連携し、演劇的アプローチから「産み、育てること」を考えていくプロジェクトです。「産み、育てること」についての悩みや不安の多くは、そのすべてが個人に帰するものではなく、その「地域」の環境や背景を色濃く映し出しています。

このプロジェクトでは、地域毎に参加者を募り、「産み、育てること」にまつわるひとりひとりの経験や想いをタテ（世代）とヨコ（地域）の広がりの中に捉えていくことを試みます。自分とは違う世代、違う場所、違う立場を生きる他者と出会い、広い視野から自分を見つめ直して、明日への一歩となる新たな可能性を見出していくことを目指しています。

↑ お問い合わせ 公益財団法人仙台市市民文化事業団 事業課事業企画係 担当：飯川
TEL：022-301-7405 FAX：022-727-1874 メール：info@sendaicf.jp

<https://www.facebook.com/tonarinokosodate>

主催：仙台市/日立システムズホール仙台 公益財団法人仙台市市民文化事業団 のびすく泉中央 助成：(財)地域創造 未来の可能性